

## 8. ヒラメ共同放流強化支援事業

戸澤隆・松本尚之・上利貴光・山口功

漁獲量が低位水準にあるヒラメ資源の回復を図るため、県内における効果的な放流手法を確立するとともに、関係県との共同放流に向けた放流効果の推定を行う。

### I. 標識放流の概要

県内栽培漁業推進協議会（以下、「栽進協」）が連携して、有明海、橘湾、大村湾の3海域へ拠点化した標識放流を実施し、その結果を表1に示した。放流海区ごとに標識部位及び耳石標識（ALC）の回数を変え、平成30年2～3月に実施した。放流尾数は合計283千尾、種苗の平均全長は76.3～82.0mmであった。

表1 標識放流結果

放流海域名	尾数	放流時期	放流サイズ	外部標識部位	内部標識
有明海	111千尾	2月15日,3月5,12日	82.0mm	しり鰭中央	ALC1重
	5千尾	3月12日		背鰭中央	ALC2重
橘湾	116千尾	2月20～23日,27日	81.0mm	しり鰭中央	ALC2重
大村湾	51千尾	2月21,22日	76.3mm	背鰭中央	ALC1重
合計	283千尾				

### II. 放流効果調査

#### 方法

**市場調査** 県内各海区のヒラメが水揚げされる主要漁協（市場）において、魚体測定、無眼側の黒化及び標識の確認を行った。市場調査で検出された標識魚は購入し、標識部位、耳石標識（ALC）及び耳石輪紋数から、放流海区及び放流年を判別した。

**漁獲統計調査** 市場調査の対象漁協（市場）の水揚げ伝票により、漁業実態や漁獲物の全長組成を考慮して、1年を3期（1～4月、5～8月、9～12月）に分け、期別の漁獲量、漁獲金額を集計した。さらに、市場調査で得られた全長データを基に調査漁協（市場）ごとに、全長と体重の関係式を用いて期別調査重量を算出し、期別漁獲量、調査重量及び調査尾数から期別漁獲尾数を推定して放流効果算出の基礎資料とした。

**放流効果推定** 調査漁協（市場）ごとの市場調査結果から、期別に標識魚の混入率を求め、漁獲統計調査で得

られた期別漁獲尾数を乗じて放流群別の回収尾数を推定した。上記で得られた調査漁協（市場）ごとの放流群別の回収尾数を海区全体に引き伸ばす際には農林統計年報値を用いた。1海区あたり2調査漁協（市場）以上の場合、漁業の実態や漁獲量の偏りから農林統計値の割り振りを行った。また、農林統計年報値が公表されていない平成29年については、漁獲統計調査で得られた各海区の主要漁協の漁獲量から農林統計値を推定した。

### 結果

**市場調査** 平成29年の各海区の推定漁獲尾数及び市場調査の結果を表2に示した。各海区の推定漁獲尾数は6,458～55,104尾の合計189,207尾と推定された。その内、調査尾数は109～1,061尾の合計3,233尾で、標識魚が合計163尾検出された。

表2 推定漁獲尾数及び調査結果

海区	推定漁獲尾数	調査尾数	標識魚検出尾数	放流海区、( )内は尾数
対馬	7,091	126	0	
香岐	6,458	230	0	
北松	47,780	311	18	香岐(2)、大村湾(4)、橘湾(11)、五島(1)
大村湾	10,288	109	2	西彼(1)、橘湾(1)
西彼	55,104	619	77	香岐(22)、西彼(2)、橘湾(35)、五島(15)、大村湾(2)、有明海(1)
橘湾	41,657	422	0	
有明海	7,643	1,061	64	有明海(26)、橘湾(11)、北松(7)、西彼(11)、香岐(5)、五島(1)、大村湾(3)
五島	13,186	355	2	香岐(2)
合計	189,207	3,233	163	

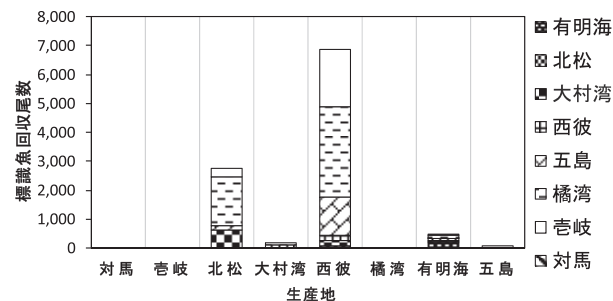


図1 産地別標識魚回収尾数

**放流効果推定** 表2の結果に基づく産地別の標識魚推定回収尾数を図1に示した。平成29年は放流群が特

定された標識魚が北松，大村湾，西彼，有明，五島の各海区で検出され，合計回収尾数は10,342尾と推定された。また，産地別の推定回収尾数は橋湾が4,979尾で最も多く，産地で大きな差が見られた。一方，放流

海区別に見ると，西彼と北松の推定回収尾数が多く，それぞれ6,853尾，2,765尾と推定された。

(担当：戸澤・松本・山口)